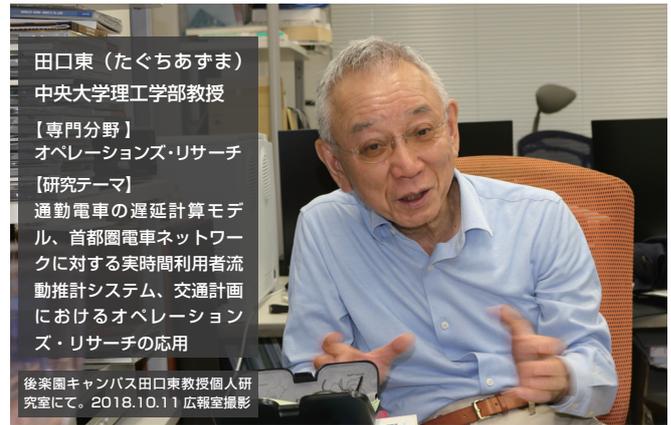




東京五輪開催時の鉄道混雑状況 首都圏広域シミュレート

交通ネットワークの専門家の予測として
多くのマスメディアに取り上げられています。

理工学部
田口 東 教授
TAGUCHI Azuma



田口東 (たぐちあずま)
中央大学理工学部教授
【専門分野】
オペレーションズ・リサーチ
【研究テーマ】
通勤電車の遅延計算モデル、首都圏電車ネットワークに対する実時間利用者流動推計システム、交通計画におけるオペレーションズ・リサーチの応用
後楽園キャンパス田口東教授個人研究室にて。2018.10.11 広報室撮影

掲載・出演メディア

<テレビ>

2016.8.24	フジテレビ	新報道 2001
2016.8.24	TBS テレビ	白熱ライブ!ピピット
2017.7.24	テレビ朝日	スーパーJチャンネル
2017.11.25	TOKYO MX	田村淳の訊きたい放題
2018.4.12	NHK	NHK ニュース「首都圏ネットワーク」
2018.5.2	TBS テレビ	あさチャン
2018.5.23	カタール国営放送	Tokyo2020Subway
2018.7.9	NHK	NHK ニュース『首都圏ネットワーク』
2018.7.21	読売テレビ	「ウェークアップ! ぶらす」
2018.7.23	フジテレビ	「プライムニュース」
2018.7.24	NHK	「ニュースウォッチ9」
2018.7.24	TBS テレビ	「NEWS 23」
2018.7.27	BS 日テレ	「深層 NEWS」
2018.8.23	東京 MX テレビ	18:00 ニュース
2018.8.24	ライター通信	

<インターネット媒体>

2017.7.24	Bloomberg	
2018.2.12	日経 xTECH	
2018.4.12	NHK「MIRAIMAGINE」	
2018.5.2	FNN PRIME	
2018.5.8	AFP 通信	
2018.5.8	Daily Mail Online	
2018.5.8	Yahoo! 7	
2018.5.8	Channel NewsAsia	
2018.7.24	FNN PRIME	
2018.7.26	NHK WORLD	

<新聞・雑誌>

2016.4.13	日刊工業新聞	東京五輪開催時の鉄道混雑状況 <中央大教授> 首都圏広域シミュレート
2017.9.1	朝日新聞	議連「五輪開会日を祝日に」 法改正案の来年提出を確認
2018.2.12	日本経済新聞	東京から始まるモビリティ改革、世界を先導する
2018.4.7	朝日新聞	五輪 交通網パンクに策 20年限定 祝日大移動
2018.4.23	日経産業新聞	東京五輪から始まる交通革命
2018.5.1	朝日新聞	五輪 朝の通勤大混乱? 中央大教授が試算 観客移動と重なり「電車立ち往生」
2018.5.15	夕刊フジ	東京五輪でJR、地下鉄、私鉄 大混雑リスト
2018.5.26	朝日新聞	五輪に鉄道網は耐えられるか 朝ラッシュ、ほぼ全線止まる恐れ
2018.6.1	朝日新聞デジタル	東京五輪、電車立ち往生「大混乱」の試算 競技集中日に
2018.6.8	日経 MJ	20年五輪開催中 専門家が予測 東京駅利用者 2割増
2018.7.1	読売新聞	東京五輪で鉄道混乱…駅から人があふれる恐れ
2018.7.16	日本経済新聞	<私見卓見> 中央大学教授(交通ネットワーク) 田口東 東京五輪は通勤混雑緩和の好機
2018.7.23	東京新聞(夕刊)	五輪通勤「時差びズ」を 鉄道網 パニック必至
2018.8.14	毎日新聞(夕刊)	五輪期間 ラッシュ懸念 観戦客 最多 65万人 電車増発余裕なし
2018.8.14	産経新聞	<東京五輪 朝のラッシュ> 「乗車率 200%」 電車 1.5 倍に
2018.8.14	日刊スポーツ	中大教授が試算 通勤時に観客移動 五輪中鉄道大混雑に
2018.8.14	サンケイスポーツ	20年東京五輪は…電車が混む 中大教授試算 乗車率 200%が 1.5 倍
2018.8.14	デイリースポーツ	東京五輪 暑いわ、混雑するわでどうなるの?! 中央大・田口教授が試算 乗車率 200%超が 1.5 倍に
2018.8.14	信濃毎日新聞	<中央大教授が試算> 東京五輪期間中 朝の鉄道 大混雑
2018.8.14	北國新聞	<中大教授試算> 五輪の朝 鉄道大混雑 東京駅は滞留者 2 倍に
2018.8.28	週刊女性	<大丈夫か、東京五輪! ?> ①交通問題 都心の主要駅はパンク寸前! 大混乱から逃れる方法とは
2018.10.08	日経ビジネス	観光立国に落とし穴 電車も宅配も滞る「混雑五輪」 高まる懸念

田口教授は、通勤ラッシュ時の交通混雑問題について情報工学科の研究領域の一分野である「オペレーションズ・リサーチ」の知見を活かした研究を進め、通勤時の混雑に東京五輪の観戦客が加わった時の過剰な混雑と駅構内の大きな滞留に警鐘を鳴らしてきました。

東京首都圏では、1日に約47,000本の電車が運行し、通常、主に通勤・通学のために約800万人が利用しています。このうえに、多い日は約65万人と予想される東京オリンピック観戦客が加わったとき、体が触れ合い相当な圧迫感がある「乗車率200%」の電車が、午前6時～9時に現在の1.5倍に増え、東京や新宿など、滞留者数が2倍以上に膨らむ駅が続出するとの試算結果が出ました。田口教授は、競技会場周辺においては会場到着時刻とアクセス駅の分散が効果的で、幹線・大規模駅に対しては、通常客の削減が適切であるとしています。その上で、混雑を避けるという守りではなく、前者では新規顧客を獲得して大きな商機を活かす、後者ではテレワークを進めて通勤客の日常生活を変革するように、「2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を社会を変える理由付けとする」積極的な姿勢が大切であると述べています。本研究成果には高い関心が寄せられ、新聞・雑誌・テレビ・インターネット媒体45件以上のメディアで取り上げられています。